

JELA NEWS

ジェラニュース 第53号 2020年12月15日発行 発行責任者 渡辺 薫

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが渇いていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。 マタイによる福音書25章35～36、40節



コロナ(COVID-19)禍だからこそ、新しいカタチの活動を!

この号にはこんな記事が ...

【P2-3】金城学院中学校とカンボジアLWDがインターネットでつながる! / 緊急海外子ども支援: 手作りマスクにカンボジアから喜びの声 【P4-5】世界の子ども支援: カンボジアに新しいプレスクールが完成 / インド・コルカタ女子支援 【P6-7】難民支援: 寄稿『第二の我が家』となった JELA ハウス」パド・ンゴイエ / 寄稿『相手への想像力を持つこと』は隣人になる第一歩」秋吉英理子 【P8】クリスマス&ニューイヤー オンライン・チャリティコンサートのお知らせ / 支援者一覧 / 編集後記

コロナ禍だからこそ、新しいカタチ！ 金城学院中学校とカンボジアLWDが インターネットでつながる

JELAのカンボジア・パートナーのライフ・ウィズ・ディグニティ(Life With Dignity=LWD、意味は「尊厳ある生活」とキリスト教主義学校の金城学院中学校(愛知県名古屋市)がJELAの仲介によってインターネットでつながりました。

金城学院中学校では、毎年「恵愛祭」という文化祭を開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染症防止のために密を避けたプログラムを計画していました。そんな中で、JELAが行なっている「手作りマスク支援」のニュースを知った同校教諭の近藤浩子さんから問い合わせがあり、文化祭でLWDと連携する企画へと発展することとなりました。

今年の恵愛祭は「超」をテーマに9月18・19日の二日間行われ、18日には、LWDのソフィーフ・スオン事務局長がオンラインで金城学院中学校の生徒らとつながり、生徒たちの質問に答えるなど、カンボジアの今を伝えるイベントがもたれました。



金城学院中学校生徒会から出された知的な好奇心溢れる質問に、LWDスオン事務局長が一つ一つ真剣に回答しました。その一部をご紹介します。



Q1: 人々の生活について教えてください。都市と地方での生活の違いはありますか。

A: カンボジアの80%が農業従事者です。都市部の生活は他国の都市と変わらないと思います。農村に住む子ども、特に

女子は家事を強いられるので、児童労働が問題となっています。また早婚の習慣が残っています。

Q2: 早婚による問題はありますか。
A: 早い子は13~14歳で結婚してしまいます。結婚の意味、子どもを産み育てることも分からずに結婚してしまうので離婚率も高いです。

Q3: 新型コロナウイルス感染症拡大によって、子ども達の生活はどのように変化していますか。

A: 手洗い、ソーシャルディスタンスの習慣化が進められています。しばらくの間、学校も閉校していましたが9月中旬から再開しました。生徒にはマスクが配布され、自治体レベルで感染を防ごうと努力しています。

Q4: 日本に対してどのような印象を持っていますか。

A: 両国の間には長い友好の歴史があります。日本政府とカンボジア政府も友好関係にあります。カンボジア人は日本製の車が大好きです。首都プノンペンの大学では日本語を学ぶことができます。

Q5: 若者の間では、今何が流行していますか。

A: 都市部では、音楽・スポーツ・食べ物・ファッション・アニメ・アイドルなどが人気です。農村の子ども達はスポーツや音楽が好きです。

Q6: 輸出の第一位がキャッサバとなっていますが、タピオカ(キャッサバが主原料の飲み物で若者を中心に日本で人気)は流行っていますか。

A: キャッサバの栽培はさかんですが、ほとんどが輸出用になっています。タピオカ

の流行については分かりません。(編集者注: 現在はカンボジアの都市部ではタピオカが流行しているようです。)

Q7: 日本のTV番組は放映されていますか。

A: もちろん放送しています。SNSを通して日本の情報や言語などを学んでいる人も多いです。

Q8: 子ども達に人気のある職業は何ですか。

A: 都市部の子どもにはIT関連や観光業が人気です。特に英語・日本語・中国語を覚えた子どもが多いです。農村の子どもは先生・看護師・警察官に憧れています。



オンラインで参加した中学校の生徒の皆さんへの謝意として、スオン事務局長は「このように日本の若い人たちがカンボジアの子ども達のことを気にかけてくれてとても嬉しい。これを最初として、これからはカンボジアに関心を深めてほしい。また、より多くの若者にカンボジアの現在について知ってもらいたい」と語りました。

金城学院中学校からは、イベント企画・開催に関わられた3名の方から感想をいただきました。



コロナ禍だからこそその経験

尾崎 礼奈・田口 綾南(生徒会執行部)

この度は大変お忙しい中、本校の文化祭、恵愛祭に御協力いただき誠にありがとうございました。私たちは、スオンさんとのビデオ通話にて司会、進行を務めさせていただきました。

初めて対面した時は画面越しでしたがとても緊張しました。最初は(JELA職員の)星崎さんが日本語に訳して下さると知らず、全神経を耳に集中させてスオンさんのお話を聞いていました。しかし聞き取れなかった部分が多かったため、星崎さんが訳してくれてとても安心しました。

恵愛祭当日、全校にZoomで生配信される企画の司会進行というような大役を務めたのは初めてだったため、とても不

安がいっぱいでしたが、生徒会の仲間や事前の顔合わせと変わらず落ち着いて接して下さるJELAの方々がいくださり、とても心強かったです。多くの方が本番直前までたくさんの準備をして下さったおかげで、無事企画を成功させることが出来ました。生徒も真剣に話を聞いており、後に先生からとても好評だったと伺いました。

コロナ禍でなければ経験できなかったであろう様々なことに取り組む機会を得ることが出来ました。今回協力して下さったJELAの皆様へ改めて御礼を申し上げます。

「まだ見ぬ友」への思いをこめて

近藤 浩子 教諭(生徒会顧問)

本校では、今年度の学校祭において、全校の生徒がひとり1枚のマスクを手作りし、それを発展途上国の子どもたちにプレゼントしようという企画をしました。それを全面的にサポートして下さったのがJELAです。

なかなか協力いただける団体が見つからず、途方に暮れながらネット検索していたところ、目に止まったのがJELAのブログでした。そこには「インド・カンボジアの子ども達に手作りマスクを届けよう!」という文字。躊躇しながらも、藁にもすがる思いでお電話を差し上げました。何の面識もない一教員からの不躰なお願ひにも丁寧にご対応いただき、カンボジアという支援先をご紹介下さっただけでなく、生徒たちがカンボジアのことを知り、「まだ見ぬ友」に手作りマスクをプレゼントするという思いを持てるようにと、リモートで生徒たちとカンボジア現地とをつないで下さったのです。

リモートには生徒とカンボジアのスオンさんとのコミュニケーションがスムーズにとれるようにと通訳をして下さった星崎さんの他に、理事の渡辺さんや理事長の古屋さんご登場くださいました。また、クラス対抗カンボジアクイズ大会では、どのクラスもスオンさんのお話から得た知識をフルに活用し、大変盛り上がりしました。

生徒たちが手作りのマスクは、形も大きさもまちまちです。しかし、その一枚

一枚に生徒たちのカンボジアの「まだ見ぬ友」への思いが詰まっています。このような素晴らしい機会を与えて下さいましたJELAに心から感謝を申し上げます。



コロナ禍のもとにあっても、新しい国際交流のカタチができました。金城学院中学校の皆様、ありがとうございました!

このようにJELAの海外パートナーとインターネットで交流する企画をご希望される学校機関・NPO団体の方は、JELA事務局までぜひご相談ください。

Eメール:jela@jela.or.jp
電話:(03)3447-1521(平日9:00-17:00)



カンボジアの農作業風景



カンボジア農村の伝統的な高床式家屋

続報!

緊急海外子ども支援

手作りマスクにカンボジアから喜びの声が届きました!!

JELA事務局の想像を超えるご支援をいただきました「手作りマスク」プロジェクトの続報をお伝えいたします。JELAは、新型コロナウイルス(COVID-19)が世界的に大流行していることから、発展途上国に手作りマスクを届ける呼びかけを4、5月に行いました。皆様の温かいご協力により、合計480枚の手作りマスクが集まりました。(既報「JELA NEWS 52号 第3面」)

今夏、世界的にマスクが品薄になってしまったこと、配送中にマスクが無くなってしまったという事例が報告されていたこともあり、JELAでは祈りつつ3回に分けて配送しました。

配送から1ヶ月経っても到着したとの連絡が無く、JELAでも非常に心配していましたが、2ヶ月後の8月中旬のある日、無事に全て到着したとの一報が入り、スタッフ一同安堵に胸をなでおろし、現地からの感謝の声に喜びました。

皆様の思いがこめられた手作りマスクをカンボジアに届けられたことを主に感謝します。

発展途上国の子ども達は、感染症を予防するためにマスクが有効だと分かっているにもかかわらず購入することができない状態です。おそらく、多くのカンボジアの子ども達にとっても今回お届けした手作りマスクが人生ではじめて着けるマスクかもしれ

ません。そのような事情を考えると、世界的にみれば小さな活動ではありますが、日本とカンボジアを繋ぐ大きな意味をもつはたらきとなりました。

当初、手作りマスクはインドの子ども達へも届ける計画でしたが、ロックダウンの長期化(10月15日まで)で配送が困難であったため、今回は断念しましたことをご報告いたします。ご理解を感謝いたします。

今後とも、JELAの世界の子ども支援事業へのご理解とご支援をお願いいたします。



世界の子ども支援 カンボジア プレスクール建設支援

カンボジアに9棟目のプレスクールが完成



JELAは世界の子ども支援事業として、カンボジアの現地パートナー、ライフ・ウィズ・ディグニティ（Life With Dignity=LWD）と共に2012年からプレスクール（3歳～5歳児が就学前に通う学校）の建築を行なっています。今年9棟目となるプレスクールが、コンポンチュナン州にある小学校の敷地内に完成しました。カンボジアの学校も新型コロナウイルスの影響により全ての学校が一時休校となっていました。10月からはプレスクールも全校授業が再開され、児童15人（内女子9名）が元気に通っています。

日本をはじめ先進国では保育園・幼稚園などの未就学児の教育制度が充実していますが、カンボジアのような発展途上国ではまだまだ未整備の状態が続いています。幼児教育の重要性は、米国で行われた就学前教育の社会実験「Perry Preschool Study Project（ペリー・プレススクール・スタディ・プロジェクト）」で実証されています。カンボジアでは農村部と都市部の教育格差が問題になっています。都市部の子ども達は、経済的に恵まれており幼少期から教育を受ける機会が豊富にありますが、一方で農村部の子ども達はそのチャンスがありません。そのような農村部の子ども達の教育問題解決を目指しているのがJELAのプレススクールの建設です。プレススクールでは、農村部の子ども達が小学校進学時につまずくことがないように、音楽や絵を描くことを通じて集団生活や基本的な読み書きを学びます。

プレススクール建築には、国や地方自治体も関わっています。プレススクール

が1棟できると、国や地方自治体はそこへ教員を派遣することができ、幼児向けの教授法指導や必要な教材の支援を提供できるようになるのです。

JELAとLWDはこれからも共同でカンボジアの将来を担う農村部の子ども達のためにプレススクールの支援をおこないます。カンボジア支援のために、引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。

プレススクールからのメッセージ



スン・ヴィスティ (Thun Visothy) 校長
 「私は子どもに教えることが好きです。基礎教育は成功の第一歩だと信じています。これまで、この村にはプレススクールや図書室がありませんでしたが、JELAの支援によって3歳から5歳の全児童が学ぶことができるようになりました。教材費の予算が足りませんでしたが、JELAが教材も一部支援してくださっていることを知りました。子ども達とコミュニティ一同、JELAに心から感謝しています。」



チュト・ブントング (Chhut Bunthong) 先生
 「皆で学ぶことができる建物ができたことをとても嬉しく思っています。新型コロナウイルスの関係でソーシャル・ディスタンスを保つため、席の間隔調整が必要ですが、この教室であれば可能です。小学生になる前に、ここで学習することが大切です。子ども達

の教育支援をしてくださるJELAとLWDに感謝しています。」

保護者からのメッセージ



マン・ナク (Man Nak) さん
 「はじめまして、私は縫製工場に働いていて、息子が2人（7歳と2歳）います。私の主人はこの村で建設関連の仕事をしています。別の村に住んでいます。毎朝早く起きて息子を学校に連れて行きます。息子が勉強ができることが嬉しいです。たくさんの友達ができる楽しそうです。私は息子が読み書きや計算をする姿を想像しています。息子が明るい未来に希望をいただき、地域社会や広い世界で機知に富んだ人になることを願っています。」



チョウ・ラン (Choun Lan) さん
 「私は専業主婦で3人の子どもがいます。夫はこの村で飲料水販売を営んでいます。プレススクールは、子ども達が読み書きや遊びを通じて基礎学力を強化するよい機会になっていると思います。村の保護者を代表して、JELAとLWDに感謝します。」



インドの貧困女児を支援 貧困や負の連鎖を断ち切るために

JELAはインドの公益事業団体ルーテル・ワールド・サービス・インディア・トラスト (Lutheran World Service India Trust=LWSIT)と協力して、西ベンガル州コルカタ市のスラム街に住む少女たちを支援しています。2010年から支援を開始し、今年で10年目となりました。

コルカタ市内には複数のスラム街があります。JELAが支援しているのは、ウルタダングというスラム地域の少女達です。少女達は親元を離れて、LWSITが運営する教育センターで寮生活を送っています。教育センターには寮のほか、学校や校庭、職業訓練所があるため安全に生活ができます。

多くは性労働者や低賃金労働者の家庭に生まれた子ども達です。スラム街の支援を通じてLWSITを知った母親が「(娘に)自分のような人生を送って欲しくない」という思いでLWSITに相談し、子供を教育センターに預けるケースが多くあります。教育センターには随時20～30名ほどの女児がおり、JELAは毎年5～6名の女児の生活費に相当する経済支援を行っています。

2、3年に一度の頻度でJELAのスタッフもこの教育センターを訪問し、支援が適切に行われているかを視察しています。今年訪問は新型コロナウイルス感染症拡大のため断念せざるを得なかったのですが、2018年9月の視察訪問では、スタッフ一同、子ども達のとて明るく自分の将来に希望を持った様子に励まされました。スラム生まれで親元を離れて暮らす10歳前後の少女達と聞くと、とても不幸で気の毒な境遇の子ども達を想像してしまいがちですが、実際に会ってみれば、教育センターの少女達は、教師、警察官、ダンサーになるという具体的な目標や将来の夢に向かって勉強し、自分の人生を変えようと努力する、瞳に強く明るい力をもつ子供たちでした。LWSITのスタッフと子ども達の間にも家族のような信頼関係ができているようです。そこで働くスタッフの多くはクリスチャンであり、仕事の根底には「キリストの愛の実践」があることが彼らの立ち居振る舞いに表れていました。

教育センターの働きは、栄養のある食事の提供、国語・算数・英語・身を守るために必要な護身術（空手）などの学習面、カウンセリング、職業訓練などの総合的な支援のため、子供たちを貧困や負の連鎖から断ち切るために役立っています。一人

の少女が教育センターで生活するためには、年間1,200米ドル(約13万3千円)が必要です。これからも皆様のお祈りとご支援をよろしく願っています。



JELAは難民や難民認定申請中の方にJELA(ジェラ)ハウス(難民シェルター)を無償で提供しています。居住者の中には、来日して間もないため日本語が話せない方や、日本語の読み書きを勉強する機会が無かった方もいらっしゃいます。そのような方に難民支援に関わってくださるボランティアの方々が日本語を教えてくださいました。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今年はインターネットを駆使した新しい日本語支援ボランティアがスタートしました。今回は2019年からボランティアとして関わってくださっている秋吉英理子さんに寄稿いただきました。



「相手への想像力を持つこと」は隣人になる第一歩

秋吉英理子

JELA NEWS 52号に掲載された塩野かなでさんとともに、2019年秋からJELAハウスに住む難民の方への日本語ボランティアをしています。以前は都立高校で国語の教師をしており、外国人生徒の多い学校で日本語を教えていたこともあって、退職を機に日本語を教えるボランティアに携わりたくと漠然と考えていたところJELAとのつながりができ、当時高校生だった塩野さんとチームを組んでの日本語ボランティアを始めることになりました。

コロナの影響で3月からオンラインレッスンに切り替え、塩野さんは生徒さんがさらに増えて今4人、私は今男性1人と女性1人を担当しているところです。

私の担当している男性の方は日本での滞在期間はすでに長く、会話のベースは日本語です。話したりメールのやりとりをしたりする中で気になった事項を取り上げて文法などのレッスンをしています。ある

時、彼としては気を利かせて男性一人称を使ったのですが「orewa ima kanji benkyoo shiteimasu」というメールが来てさすがに面食らい、次のレッスントピックは「日本語の一人称」に。彼からは、なぜ「おれ」はだめなのか、「ぼく」ならいいのか、「おれ」はいつ使えるのか、ドラマなどでよく男性が言っているではないか・・・などとシャープな質問が、納得できるまで続きます。話す相手に応じて言い回しを変えられる日本語の特徴をあれこれ説明してようやくそのトピックは終了。何か国語にも通じ、興味関心が多岐にわたる彼からの質問は機知に富み、いつもあつという間に時間が過ぎていきます。

彼はざつとばらんに何でも話してくれます。コロナ禍前、ファミリーレストランでレッスンをしていた頃のこと。ある日、大きなレジ袋を重そうに提げてやって来ました。何でもNPOで食料をもらって来たあと駆けつけたそうで、白菜やじゃがいも、ヨーグルトなどが見えました。レッスン後の駅までの道すがら、週一回ほどもらいに行く食料のことに話が及んだ時、彼は「私は本当は肉がたくさん食べたいんだ」と切実な声を上げました。それを聞いた瞬間、私には彼が故国の食卓で肉料理を食べている姿が浮かんできたのです。本来なら住み慣れた自分の国で仕事に就き、家族がいて普通の暮らしをしているはずであるのに、やむなく自国を逃れて日本にいる。身分が不安定なため就労もままならない現在の不自由な暮らし、そのギャップを、私はどれだけ具体的に想像できていたろうか、とハッとさせられました。

その後、彼の日本での生活の展望に大きな前進がみられ、それと同時に彼の日本語への取り組み姿勢は驚くほど変わっていききました。それまでは日本で仕事をするには日本語の読み書きが必要だから、といくら話してもローマ字に頼りがちだったのが、急にひらがな、カタカナ、漢字の練習プリントを自ら入手し、先に紹介したような前向きなメールが届くようになったのです。丁寧に正しい言葉遣いを勉強したい、と敬語も貪欲に取り込んでいきました。この変化を目の当たりにして、道が開けること、具体的展望が得られることがどれほど

人に力を与えるものなのかを知り、同時にここまでの間、どれほど筆舌に尽くしがたい経験を重ね、先の見えない不安に耐えて過ごして来られたことか、と遅ればせながら思い至りました。

JELAでボランティアを始める以前は難民問題についての知識はほとんど皆無でしたが、実際に知り合いができて以来、世界各地の紛争のニュースなど難民関連のニュースに少しずつ目が行くようになっていきました。この秋にはNPO法人難民支援協会の講座を受講し、日本の難民保護制度や、難民支援の現状について学ぶ機会を得、問題が山積していることを知りました。講座の中で紹介されたある難民の方の次の言葉が深く印象に残っています。「コロナ禍も平時も同じ。知人もいない、出かける場所もない、お金もない。」緊急事態宣言後、突然「当たり前」の生活が消え、人との関係を遮断される閉塞感を私達も味わいました。先行きの見えない不安や恐怖が募る中、声を掛け合い励まし合うことができないということが、こんなにも辛いものだったとは。コロナ下の経験が私達の想像力を少し高めてくれたようです。

彼とのレッスンが始まってかれこれ1年、絵が好きで、自分でも昔はよく描いていた、画家ではダリやルーベンスが好きだ、などと趣味の話に花が咲くこともあります。そして私が風邪をひいた時には、パブリカ1個にはレモンの5倍のビタミンCが入っているから、食べるといいよ、玉ねぎやんにくも効くよ、などと心配してくれます。気心が知れてきて、私の意識の上では難民の方というより友人です。

話の端々から、彼の周りには本当に多くのサポーターがいることがわかります。これまでも、そしてコロナ禍の下でも彼の相談に親身に耳を傾け、一緒にあちこち足を運んでくれる人たちがいます。

「つながる」こと、そして「相手への想像力を持つ」ことは隣人になる第一歩のような気がします。微力ですが、いま関わっているみなさんの隣人になれるようさらに努めていきたいと思っています。そして隣人の輪が少しずつでも広がっていくことを願っています。

JELAが都内2ヶ所で運営する「JELA(ジェラ)ハウス」は、難民の方々の保護と、先述の日本語レッスンのように、自立の支援を目的としています。家賃や光熱費、インターネットが無償で提供されていて、難民の方々が公的なセーフティネットとつながるまで、もしくは就労ができるようになるまでの生活を支えています。2019年末から2020年6月までの6ヶ月間、JELAハウスに居住した人権活動家のパド・ンゴイエ(Pado Ngoie)さんから寄稿いただきましたので掲載します。

「第二の我が家」となったJELAハウス パド・ンゴイエ(コンゴ民主共和国)

私にとってのJELAハウスを一言で表すとしたら「第二の我が家」です。家とは安心できる場所、愛を感じる場所、尊重される場所であるべきですが、その意味でJELAハウスは正に「家」でした。家族や友人と一緒に家で過ごしている時のように、自分が守られ、愛され、大切にされていると感じました。

私はもともと大阪にいましたが、複数のNGOの支援を受けた結果、JELAハウスに入居させてもらえることになりました。大阪にいるときからJELAハウス入居まで、私をサポートしてくださった皆さんには、感謝してもしきれません。

2019年12月9日に私はジェラハウスに入居しました。そのときには、この場所で家族と呼べるような素晴らしい人々に出会うとは思っていませんでした。

日本に不慣れな私は、日本の文化にちゃんと馴染むことができるかどうか不安でした。いままでとは違うことばかりでした。そんななか、JELAが入居3日目の私の歓迎も兼ねて、クリスマス会を開いてくれたのは、大きな喜びでした。このイベントによって、私は愛するJELAハウスの家族の一員となれたような気がしました。

JELAハウスでは、新しい友人に恵まれました。また、言葉や食事など、日本の文化や伝統について学ぶこともできました。これらの事柄を学んでいく過程では、必ず忘れられない思い出が作られていくものです。

JELAスタッフをはじめJELAハウスの運営を支える人々は、支援を必要とする人々に対してとても配慮が行き届いていて、私たちのために様々な手を尽くしてくれま。このような支援を居住者が無料で受けられるのは信じられません。

半年の月日が流れ、名残惜しいですが、JELAハウスを退去し新たな生活を始めるときが来ました。これは日本政府による生活費の支援を受けることになり、自分で新しい住居を借りて暮らすことができるようになったためです。

生涯忘れることのない思い出とともに、私はJELAハウスを後にしました。JELAハウスに関わる人々の思いやりの精神を、私は自分のこれからの人生の中で実践していきたいと思います。温かく接してくださった渡辺薫さん(JELA事務局長)には特に感謝しています。JELAハウスが私の人生を好転させてくれたように、他の人々の人生も良い方向に向かうようにと願います。

最後に、JELAが難民をはじめとする助けを必要とする人々に対して行っている人道的な働きが今後も続き、拡大していくことを祈っています。

JELAハウスの素晴らしい働きには普遍的な価値

があると信じています。もし私が自分の人生について一冊の本を書くとしたら、そのうちの一章にはJELAハウスで過ごした時間について書くことでしょう。

JELAハウスよ、私の「第二の我が家」となってくれてありがとう! シャローム!!

JELAでは、今回ご紹介した秋吉さんのように、難民や難民認定申請者の方のための日本語ボランティアを募集しています。パソコンやタブレット(マイク・カメラ付)をお持ちで、SkypeやZoomでレッスンを行える方でしたらどなたでもご参加いただけます。特別な資格などは不要ですが、ボランティア登録には履歴書・面談(ルールの説明会)があります。皆様のお申し込みをお待ちしています。ご関心のある方は以下までご連絡ください。

Eメール:jela@jela.or.jp
電話:(03)3447-1521(平日9:00-17:00)



クリスマス会にはボランティアも参加



パドさんが6ヶ月過ごしたJELAハウス

クリスマス & ニューイヤー オンライン・チャリティコンサートのお知らせ

この冬、JELAでは新しい取り組みとしてインターネットを使ったオンライン・チャリティコンサートを企画しました。今年は会場でのチャリティコンサートの開催はかないませんでしたが、ご自宅に居ながらにして皆様にお楽しみ頂けるよう、実力派アーティストの演奏をオンラインでお届けします。プレゼンター（司会）に立つJELAの面々には、皆様が良くご存じの顔もあるかもしれません。ぜひJELAのYouTube（下記のURLまたはQRコードからアクセス可）のチャンネル登録と当日のご視聴をお願いします。

クリスマスから新年までの公開スケジュールは次の通りです。
※各回、公開日の正午にプレミア公開し、その動画は翌々日の正午まで一般公開されます。その後、アーカイブ版を再度公開します。

【スケジュール】

- 2020年12月 5日（土） HanaWuta（ヴォーカル・ギター）
シンガーのIzmiさんとギタリストのMichio Ohgaさんによるポップス・ユニット
- 2020年12月12日（土） 香～kaoru～（ピアノ・ヴァイオリン・トランペット）
クラシックからサントラ、ポップスまでをトリオで演奏
- 2020年12月19日（土） La Fontaine（ピアノ）
方波見愛さん・角本茜さんによるピアノ・デュオ
- 2021年 1月 9日（土） 池田麻利亜さん（ピアノ）
ピアノによるクラシック楽曲
- 2021年 1月16日（土） 前田勝則さん（ピアノ）
ピアノによるクラシック楽曲

- 本紙発行前の11月28日（土）に公開した松井花枝さんによるクラシック音楽のピアノ演奏も、同じYouTubeチャンネルにてアーカイブをご覧ください。ぜひご鑑賞ください。
- オンライン・チャリティコンサートの最新情報はJELAホームページやブログにて紹介しています。
- JELAのYouTubeチャンネルのURL（右のQRコードも参照）
https://www.youtube.com/channel/UCeCD_12qSo_xTTXs928rGRg
JELAのウェブサイト（<http://www.jela.or.jp/>）からもアクセスできます。



※この企画は、世界の子ども支援を目的としたチャリティコンサートとなります。JELAの活動にご賛同いただけます方はオンライン（クレジットカード）、または本誌同封の振込取扱票にて「チャリティコンサート」とご記入の上、ご寄付をお願いいたします。



HanaWuta



香～kaoru～



La Fontaine



松井花枝



池田麻利亜



前田勝則



国連で合意された17のグローバル世界共通の目標を「SDGs(Sustainable Development Goals:エスディー・ジー・ズ)」といいます。JELAはSDGsに賛同し、よりよい国際社会の実現に貢献しています。

JELAの活動にご支援を！
各種献金のご送金は下記をご利用ください。



ホームページからクレジットカードでご寄付いただけます！

支援者一覧

(2020年6月1日～2020年9月30日)

※順不同・敬称略

秋吉英里子 / 秋吉亮 / 阿部光成 / 安藤淑子 / 池田哲也 / 稲永あけみ / 井上渥子 / 井上新 / 井上秀樹・祐子 / 上窪松子 / 内海和子 / 大石敏和 / 太田立男 / 大瀧直人 / 大塚真佐子 / 大嶺愛持・裸覇武・十六夜 / 勝部久子 / 京谷信代 / 工藤達晃 / 河野悦子 / 小坂敦子 / 古庄理世 / 小長谷ヤヨコ / 小丸吉展 / 斎藤正恵 / 杉浦りえ / 杉山美紀子 / 田中佳那恵 / 辻裕子 / 富山恵美子 / 鳥飼勝隆・豊子 / 中山純郎 / 西立野園子 / 芳賀美江 / 蓮香隆夫 / 原田靖彦・裕子 / 廣幸朝子 / 藤井礼子 / 古屋桂子 / 古屋四朗 / 保坂和子 / 益永和代 / 南谷なほみ / 牟田青子 / 森下真樹 / 森涼子 / 山県順子 / 山澤慧 / 山本了 / 湯田美千子 / 若原奇美子 / 渡辺聡 / JELC 玉名教会

以上、ご支援ありがとうございます。

匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集後記

クリスマスを目前に控えるこの時期はいつも梱包作業のように一年を丁寧に振り返るようにしています。今年は特に、一つの扉が閉ざされても、必ず別の扉が用意されているという、神への信頼を学ぶ一年となりました。

COVID-19の影響によって、JELAも多くのことを断念せざるを得なかったり、活動内容の見直しを迫られたりしました。しかし一方で、オンラインという扉を開けると、そこには物理的な距離を問題としないユニークな活動のアイデアが溢れていました。この新しい挑戦にあって、特に活動の前線に立つ事務局の職員たちは、活動内容の吟味だけでなく、日々の働く意義、さらにはJELAの働きの本質を問われてきたように思います。答え探しはもう少し続くことでしょう。神の愛を人々に伝える器である、というキリスト者としての自己認識を確かにしつつ、へり下り、隣人に寄り添う、という地道な活動の中に、きっと各自が答えを見つかるのだと思います。(渡辺薫)



Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人 日本福音ルーテル社団

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26

Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523

Email: jela@jela.or.jp

HP:<http://www.jela.or.jp>

郵便振替口座番号:00140-0-669206

加入者名:一般社団法人日本福音ルーテル社団